

ワンポイントガイド



●若竹の泉【秦野(はだの)湧水群のひとつ】

渋沢断層からの湧水で、渋沢丘陵に沿って流れる室川の源流に位置します。緑に囲まれてひっそりとたたずむ湧水で、その緑に溶け込むように、せせらぎの音を響かせています。

地元の皆さんの努力で、白山神社の山の中腹にある横穴の湧水を800m引いてきています。

水の出口には、当時の市長による「…しあわせの水として御利用下さい」と刻まれた石碑があります。



●頭高山(ずっこうやま)

千村の西南にある約330m程の小高い山です。

名前の由来は「どこから見ても丸い頭の形をしている」ことから名付けられました。

山頂には秋葉神社の祠(ほこら)があることから、江戸時代末期の頃まで、秋葉山と呼ばれていました。春の桜の咲く頃は八重桜がとてもきれいです。



●渋沢丘陵(渋沢丘陵から丹沢の山々を望む)

秦野盆地の南方をさえぎっている渋沢丘陵は、なだらかな地形です。渋沢丘陵からは、秦野の市街地と丹沢の山々を一望する事が出来ます。



●震災の碑

1923年(大正12年)9月1日の関東大震災で、小原地区の女の子2人が南小学校から下校する途中、峰坂で行方不明になったと言われています。その供養塔です。



秦野(はだの)にはどうして湧水がたくさんあるの？



ワンポイントガイド

●震生湖

1923年（大正12年）9月1日の関東大震災で震生湖は誕生しました。震生湖は、この地震により渋沢丘陵の一部が崩れ、谷を堰き止めてできた、ひょうたん型の堰止湖です。

面積13,000平方m、周囲約1,000m、最大水深10m(平均水深4m)、周辺では1年を通して、約50種類の野鳥、約100種類の野草が見られます。



●白笹(しらささ)稲荷神社

江戸時代初期は「白笹(しらささ)」の文字を用いていました。1774年(安永3年)に由来を明らかにするため、新たに伏見稲荷を祭って再建されました。神社のキツネは、農作物の外敵であるネズミを食べてくれるため、春の耕作の始めに田神(たのかみ)と迎えられ、食べ物の神様の使いと考えられていました。

“食”を守り“生きる力”を再生するお稲荷さんです。



●まいまいの泉【秦野(はだの)湧水群のひとつ】

南公民館の敷地内(屋外)にある湧水です。

まいまいの泉は、大昔に作られた井戸「まいまいず井戸」にちなんで命名されました。

形状がカタツムリに似ていることから、俗に「まいまいず井戸」と呼ばれています。地下20mから地下水が自噴しています。



●おいしい秦野(はだの)の水 『丹沢の雫』

平成28年3月には、環境省の『名水百選』選抜総選挙で『おいさがすばらしい名水』部門で第1位となりました。

市内の数ヶ所で販売しています。



名水百選「秦野盆地湧水群」認定書



1位に選ばれた「おいしい秦野の水」

だから、秦野(はだの)の水は美味しいんだね



丹沢山地と渋沢丘陵に囲まれた、神奈川県唯一の盆地なんだ。何と約7億5千トンの地下水が蓄えられているんだ。だから市内のいたるところから湧き出ているんだよ

